

拝啓、毎回全く同じ文面だった冒頭文を少し簡略化しました。

私播磨屋助次郎は、地元警察が「天皇陛下のご命令です」と明言して、健康状態を毎月欠かさずチェックしに来てくれる、そんな特別な人間なのです。

その積もりでお読み頂ければ幸いです。

今回は「覚者から観たトランプ大統領観」という話です。

実は、私とトランプ大統領は二歳違い（私が年下）の同世代なのです。

王道（徳や仁による全体よしの政道）と霸道（武力や権力による己よしの政道）の決定的違いを秘めながら、昭和六十年（一九八五年）ごろ、まだまだ血氣盛んな三十代の後半に、日米両国で、共に「上」を目指していました。

トランプ大統領は米国の中心ニューヨークで不動産屋として、私は日本の片田舎（兵庫県朝来市）でおかき屋としてです。

そして今日、片や米国現役大統領、片や徳仁今上天皇の實質的最側近なのです。

また、片や凋落著しい覇権国家アメリカを立て直そうと苦闘し、片やその名も麗しい徳仁天皇を仰いで、世界の恒久的平和実現のため勇躍邁進中なのです。

さてこの先ですが、私の近未来予想は以下の通りです。

先ず、戦争による祖国の再生や恒久的存続に限界を感じたトランプ・プーチン両大統領が、戦争無用の「王道」を説く徳仁天皇に急傾倒して行きます。

元々「靈性」低からぬ両者には、戦争そのものが嫌悪でしかなかったからです。共にキリスト教徒である故に「人類根本救済」に何の違和感も無かったしです。そして人類は、一万年の悪夢から目覚め始めるのです。皆様どうぞお楽しみに。